

1. 研究目的

様々な精神的圧迫のある避難所生活において、女性故に抱えるデリケートな問題は非常に多い。この現状を踏まえ、女性の身体面と精神面の双方を支えるために必要と考えられる日常動作の可能な空間ツールを研究する。

2. 調査と分析

ネット媒体による一般公開アンケート調査及び実質インタビュー調査の意見を収集した結果、人目の多い避難所空間の中で最も精神的負担に通ずる日常行為として以下の2つが浮上した。

- ・乳児に対するケア全般(おむつ替え、授乳etc…)
- ・容姿を整えること(着替え、フェイスクケアetc…)

これは体を衣服の外へ直接出すことや普段は他人には見せない行為を集団生活により制限されるため、女性にとっては非常にデリケートな問題となっている事を表していると考えられる。視線のシャットアウトの叶う個室空間の制作を行うにあたり、これらのニーズを実現でき且つそれらを快適に行えるという事を最終達成値と定める。事前調査では外観設定、空間内における必要最低限の用具及び必要最小スペースの3項目を、実質調査を基に設定。まず外観は被災地の環境下を想定しそれに適すると考えられる既存する仮設トイレのブースをそのまま使用する。対して室内は使用対象者である女性の感性に沿った美的仕立てとする。空間内設置の必須アイテムの決定では一般女性を対象に実施したアンケート調査を基に次のアイテムに決定する。ベビーベット/鏡/ゴミ箱/授乳チェア/メイク台(荷物置き)/洗面所

3. コンセプトの立案

“心身ともに美しく、健やかに”

- 1:乳児のケア及び容姿のケアが出来る
- 2:個室化・視線のシャットアウト化
- 3:室内空間の美的仕上げ

4. デザイン展開

既存の仮設トイレをもとに空間サイズを決定し、ペーパーモデルによるパーツごとのレイアウトを検討した。パーツは調査をもとに分った必須物アイテム及びミニマムサイズとし、それらを提案したレイアウト3

案から使いやすく圧迫感の一番少ないと考えられる配置案で1/1モデルを制作した。これをもとに行った中間検証(1/1モデルによる空間スペース・素材検討)では、個室空間に対し「思ったよりも広く感じられた」という意見が全体を占める結果となった為、更なる省スペース化を図った。また空間内全体のパーツデザインのまとまりを考慮し、洗面所とメイク台(荷台)を統合した。更に使用感の向上を図り、収納棚の収納口の拡大を行った。色・素材においては聞き込み調査を基に柔らかい色合いで統一し、汚れにくい素材を使用する事とした。浮上したこれらの改善点を改良した1/1空間モデル及び新しく制作した1/4コーディネートモデルにより最終検証を行った。ユーザー検証としてはほぼ満足の評価を受ける事が出来た。1/1空間モデルによるスペース検証ではベビーベットと背面の壁との距離がやや狭いと指摘を受けたため、奥行きを再調整を行った。1/4スケールモデルでは一般女性を対象にしたアンケート調査を基にトータルコーディネート(パーツのデザイン・色彩)を決定した。

5. 完成図



6. 結論

ユーザー調査ではおおむね良好的な評価が得られ、今回の研究を経て当提案の需要は高いと見込めた。女性の生活を考慮した視点は、避難所に対する取り組みに対し必要性を強く感じる。

文献

宗片恵美子“災害時における女性のニーズ調査”
特定非営利活動法人イコールネット仙台

www.bousai.go.jp/jishin/chubou/toshibu_jishin/6/1.pdf
(参照2011-04-27)